



Evaluate 依存と影響の診断

前記のScopingからLocateにて対象とし特定した動植物原料を使用する尼崎工場と川崎事業所（大師工場）の各々の製品の事業である機能材料事業と機能食品事業について、ツールとしてENCORE※1を使用して、自然への依存※2と自然へ与える影響※3の特定と診断をしました。具体的には両事業のバリューチェーンの上流（原材料の栽培・畜産・輸入・加工）、自社（製造）および下流（製品の保管・輸送、顧客による製造（前記の自社工場製品を原料として使用））の各工程における自然への依存と影響を特定・診断し、ヒートマップにまとめました。

その結果、自然への依存に関して、バリューチェーンの複数の工程に共通して、地下水と地表水の「水」の利用に高く依存している結果となりました。また、植物の栽培や、牛・豚の畜産は依存項目が多く、依存度も高い傾向がみられました。

一方、自然に与える影響に関して、バリューチェーン全体で前記の依存と同様に「水」の使用の影響度が高く、自社事業の製造においても「水」の使用が特に高い要素と認識し、継続して水の使用量削減、水質の維持に努めていきます。

自然への依存・影響とバリューチェーンとの関係

依存・影響の度合 大 小

工 程		自然への依存																			自然への影響											
		家畜による労働	繊維などの素材の提供	遺伝子資源の提供	地下水の利用	地表水の利用	受粉	土壌の質の維持	植物による換気	水循環の維持	水質の維持	汚染物質の浄化	水や大気による希釈	汚染物質の濾過	騒音・光害の軽減	河川などの流量の調節	気候の安定化	病害の調節	風水害からの保護	土壌侵食からの保護	害虫の調節	水の使用	陸上生態系の利用	淡水生態系の利用	海洋生態系の利用	その他の資源利用	温室効果ガス排出	大気汚染	水質汚染	土壌汚染	固形廃棄物	騒音・振動・光害
上流	栽培																															
	畜産																															
	輸入																															
	加工																															
自社	製造																															
下流	保管・輸送																															
	製造（機能材料事業）																															
	製造（機能食品事業）																															

※1 ENCORE: Exploring Natural Capital Opportunities, Risks and Exposure（自然資本の機会、リスク、開示の探究）。

金融機関のネットワークであるNCFA（Natural Capital Finance Alliance、自然資本金融同盟）などが開発した企業の自然への影響や依存度の大きさを金融機関が把握するためのツール。

※2 依存: 事業活動を行うために依存している生態系サービス（例: 農作物の栽培は、水の供給や昆虫などによる受粉などの生態系サービスに依存している。）

※3 影響: 事業活動が自然に与えるプラスまたはマイナスの影響（例: 化学品の製造により、水の使用や温室効果ガスの排出などの影響を自然に与えている。）